様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６５３１１０

研究課題名（和文）まちづくりに資する参加型質的調査手法の開発

研究課題名（英文）Study on participatory qualitative research for community development

研究代表者
宮内　泰介（Miyauchi, Taisuke）

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：５０２２２３２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、まちづくりや環境保全活動などに資する住民参加型の質的調査手法を開発することを目的とした。
まず、島根県隠岐郡中ノ島に住む人たちの聞き書きや、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市北上町における被災者の聞き取り調査を通じ、市民・住民が行う調査手法の開発を行った。また、中ノ島の聞き書き集や北上町の調査結果の住民への公表などを通じて、質的データの市民向け活用法の開発を試みた。さらに、2014年12月に各地で聞き書きに取り組む団体とともにシンポジウムを開き、質的データの市民向け活用法の開発についての体系化を試みた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop participatory method of qualitative research for the purpose of sustainability and community development. First, it developed the methodology through hearing reasearch in Okinoshima, Shimanne and Kitakami, Miyagi. The latter is one of the heavily tsunami affected are. Second, it developed the utilization of the qualitative data, through publishing the research to the residents and the public and through a symposium collaborated with some citizen research groups.

研究分野：環境社会学

キーワード：市民調査　聞き書き　地域資源発見　質的データ　アクション・リサーチ　復興支援　災害

１．研究開始当初の背景

近年、市民参加によるまちづくり（ここでは、地域活動、環境保全活動、ボランティア活動、地域活性化のための活動など幅広いものを指している）がますます盛んになってきているが、いくつかの壁にもぶち当たっている。その主なものは、資金不足、人材不足、スキル不足、である。そして、スキル不足の中の重要な要素として、調査スキルがある。

なぜまちづくりに調査スキルが必要なのか。

（1）市民参加によるまちづくりにおいて、何が地域の課題なのか、本当に必要なニーズなのかを把握することは必須であるが、従来それは、参加する人々の経験的な知識によったり、あるいはメディア等を通じた一般的な「常識」によるものが多かった。しかし、それがえてして現実とズレていることが多いことがすでに多く指摘されている。

（2）もちろん、現実を知るために調査が必要だということは以前から認識されているが、多くの人が「調査」というと質問紙調査（アンケート調査）をイメージしていて、そのために質問紙調査が行われることが多かった。しかし、質問紙調査に必須のサンプリングが科学的になされなかったり、あるいは、十分な予備調査が行われないまま質問紙調査が行われ、結局のところ調査しないでも分かるような常識的な結果が出るだけのものが多かった。

（3）一方で、“まち歩き”などによる「地域資源発見」の試みが多くの地域で行われるようになった。住民自身が気がつかなかった地域に眠るさまざまな地域資源を掘り起こそうというものだが、実際にやってみると、これは簡単ではない。どうやれば埋もれた「地域資源」を掘り起こせるのかは簡単ではなく、結局元から地域で広く認識されているものを確認するだけにとどまるという事例も多い。

２．研究の目的

以上を踏まえ本研究では、まちづくり、環境保全活動、市民活動などに資する住民参加型の質的調査手法を開発することを目標とする。すなわち、

（i）市民・住民が行う聞き取り、聞き書き、フィールドワークなどの調査手法開発（市民参加で取り組みやすくまた効果的な質的調査はどうあるべきか）

（ii）収集したデータの市民向け整理法の開発（取り組みやすく効果的な整理法）

（iii）整理した質的データの市民向け活用法の開発（質的データを使ったワークショップなど、まちづくりや市民活動に直結するような質的データの利用法の開発）

の 3 つを、社会実験を織り交ぜながら進める。

３．研究の方法

本研究では、以下の 3 つの研究を並行して行うことにより、まちづくりの現場で役に立つ参加型の質的調査手法を開発し、同時にその利用法も開発する。

（1）まちづくりに資する質的調査の方法や事例について調査する

（2）研究会開催により理論的な深化を図る

（3）社会実験として、まちづくりに資する質的調査を実践する

（4）手法開発

すべてのプロセスは、研究者と市民、行政が協働で行うことを本旨とし、社会実験的に進めていく。

４．研究成果

本研究は、まちづくり、環境保全活動、市民活動などに資する住民参加型の質的調査手法を開発することを目的とし、具体的には、（1）市民・住民が行う聞き取り、聞き書き、フィールドワークなどの調査手法開発（市民参加で取り組みやすくまた効果的な質的調査はどうあるべきか）、（2）収集したデータの市民向け整理法の開発（取り組みやすく効果的な整理法）、（3）整理した質的データの市民向け活用法の開発（質的データを使ったワークショップなど、まちづくりや市民活動に直結するような質的データの利用法の開発）の 3 つを進めてきた。

（1）については、島根県隠岐郡中ノ島に住む人たちの聞き書きを実践し、さらに、昨年度に引きつづき東日本大震災の被災地である宮城県石巻市北上町における被災者の聞き取り調査を行い、成果を上げることができた。

（2）については中ノ島の聞き書き集（『海士伝２　海士人を育てる――聞き書き　人がつながる島づくり』『海士伝 3　海士に根ざす―聞き書き　しごとでつながる島』）を地元のまちづくり会社と協働で作成するという作業の中で進んだが、一方財政的な問題など課題もいくつか見つかった。

（3）については、2014 年 12 月に各地で聞き書きに取り組む団体とともにシンポジウムを開いて、ある程度の体系化が進んだ。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）

赤嶺淳, 2014,「環境問題とむきあう――モノ研究からマルチ・サイテット・アプローチへ」『地域研究』14(1):139-158.（査読有）

〔学会発表〕（計　1　件）

MIYAUCHI, Taisuke, "Citizen science for sustainable social-ecological systems, from Japanese experience"（口頭発表）
2014 年 6 月 10 日，14th Congress of the International Society of Ethnobiology，Ugyen Wangchuck Institute for Conservation and Environment, Bumthan, Bhutan

〔図書〕（計　9　件）

(1) 赤嶺淳監修, 2014,『海士伝 2　海士人を育てる―聞き書き　人がつながる島づくり』,グローバル社会を歩く研究会，208.
(2) 宮内泰介・藤林泰, 2013,『かつお節と日本人』（岩波新書）岩波書店，240.
(3) 宮内泰介編, 2013,『グループディスカッションで学ぶ 社会学トレーニング』三省堂，150.
(4) 赤嶺淳編, 2013,『グローバル社会を歩く―かかわりの人間文化学』新泉社，368.
(5) 赤嶺淳, 2013,『グローバル社会を歩く』新泉社（赤嶺淳編「能登なまこ供養祭に託す夢―ともにかかわる浜おこしと環境保全」pp.20-7 を分担執筆），368.
(6) 赤嶺淳監修, 2013,『海士伝　隠岐に生きる―聞き書き　島の宝は、ひと』,グローバル社会を歩く研究会，161.
(7) 赤嶺淳編, 2013,『バナナが高かったころ―聞き書き　高度経済成長期の食とくらし 2』,グローバル社会を歩く研究会，201.
(8) 赤嶺淳・森山奈美編, 2012,『島に生きる―聞き書き　能登島大橋架橋のまえとあと』グローバル社会を歩く研究会，192.
(9) 赤嶺淳編, 2011,『クジラを食べていたころ―聞き書き　高度経済成長期の食とくらし』グローバル社会を歩く研究会，213.

６．研究組織

(1)研究代表者

宮内　泰介（MIYAUCHI TAISUKE）
北海道大学・大学院文学研究科・教授
　研究者番号：50222328

(2)**研究分担者**

赤嶺　淳（AKAMINE JUN）
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授
　研究者番号： 90336701